

神奈川県発掘調査成果発表会 2024

◆日 時

令和6年7月20日（土）14:00～16:00

◆内 容

- 「新道遺跡第3次調査」（大和市） ―― 1
中山 豊（株式会社玉川文化財研究所）
- 「三田林根遺跡第5地点」（厚木市） ―― 3
秋山 重美（株式会社玉川文化財研究所）
- 「諏訪前A遺跡第18地点」 ―― 5
 - ・ 七ノ域遺跡第15地点」（平塚市）
宇井 義典（大成エンジニアリング株式会社）

25,000年前の^{れきぐん}礫群の大量出土

しんみち

新道遺跡第3次調査

所在地 大和市上和田地内

調査期間 令和5年7月13日～令和6年3月22日

調査面積 239.129㎡

調査組織 株式会社玉川文化財研究所

担当者 小林晴生・中山 豊

調査概要 新道遺跡は大和市の南東部に位置しています。地形的には、境川を見下ろす相模野台地の東側縁辺部に立地し、標高は約57mを測ります。



第1図 遺跡位置図 (1/50,000)

本遺跡は1～3区に調査区が設定され、これまでに令和2年度の第1次調査（1区A）、令和3年度の第2次

調査（1区B・3区A）が行われています。既に発見されている遺構は石器ブロック24カ所、礫群100基となり、遺物は石器2,488点、礫4,829点の合計7,317点が出土しています。これらの時期は石器と礫群の出土層位と出土状況から、B1層上部（第Ⅰ文化層、約21,000年前）、B1層下部（第Ⅱ文化層、約23,000年前）、B2L層上部（第Ⅲ文化層、約25,000年前）、B2L層下部（第Ⅳ文化層、約28,000年前）の4時期に文化層が設定されています。4時期のうち第Ⅲ文化層からは最もまとまった遺構・遺物が発見され、本遺跡の主体となっています。その中でも注目されているのは、台地縁辺に近い1区から確認された非常に密集度の高い礫群80基を中心とする遺物・遺構密集域です。

今回行った第3次調査は、第1・2次調査の中間地（2区・3区B）と第1次調査隣接地（1区B残地・C・C北側）を調査区として、これまでに分割して調査されてきた調査区がすべて繋がりました。第3次調査で新たに発見された遺構は、現地調査終了時点で石器・礫集中（遺物集中）4カ所、礫群4基、発見された遺物は石器305点、礫1,104点、合計1,409点となります。遺構の石器ブロックと礫群は、現在進めている発掘調査報告書の作成作業で行っている整理と分析によって、その数は増えることとなります。また、今回の調査では第Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ文化層が確認できました。

第Ⅲ文化層からは最もまとまった遺構・遺物が発見され、前回調査までの調査と同様に本遺跡の主体となる文化層であることが追認できました。さらに、1区C北側の調査区では、これまでに発見されている第Ⅲ文化層の礫群を中心とする遺物・遺構密集域の広がりを確認でき、遺構密度が徐々に低くなる状況が捉えられました。これにより、遺物・遺構密集域の北端部の状況が判明し、現状で確認できる礫群の密集域範囲は南北約17m、東西約14mを測ることが分かりました。ほかに、2区の第Ⅲ文化層からも約10m×約6mの範囲に礫群主体の遺構集中域が発見されました。このように、第3次調査では第1・2次調査と同様に礫群の使い方考える上で貴重な資料が得られました。今後は、これまでに蓄積してきた調査成果の総合化が課題となってきます。（中山 豊）



第2図 新道遺跡第1～3次調査区第Ⅲ文化層礫(赤)分布図

1/400



写真1 1区C北側第Ⅲ文化層の遺物出土状況(南東から)



写真2 1区C北側第Ⅲ文化層の2号礫群(北東から)



写真3 2区第Ⅲ文化層の遺物出土状況(北から)

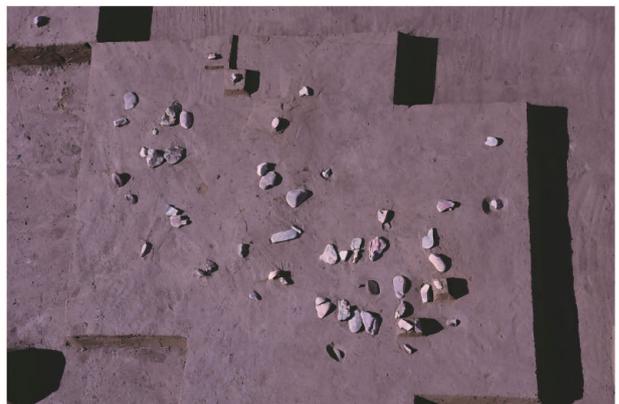


写真4 2区第Ⅲ文化層の礫群集中(北東から)

縄文時代中期の配石遺構を伴う集落の調査

さんだはやしね

三田林根遺跡第5地点

所在地 厚木市三田字林根461-3外

調査期間 令和5年4月18日～令和6年1月15日

調査面積 約838㎡

調査組織 株式会社玉川文化財研究所

担当者 秋山重美・北平朗久・坪田弘子

調査概要 三田林根遺跡は厚木市の北東部に位置しています。地形的にみると、中津川と荻野川に挟まれた荻野台地上の標高約53.8mを測る平坦部から東側縁辺部にかけて立地しています。



第1図 遺跡位置図 (1/50,000)

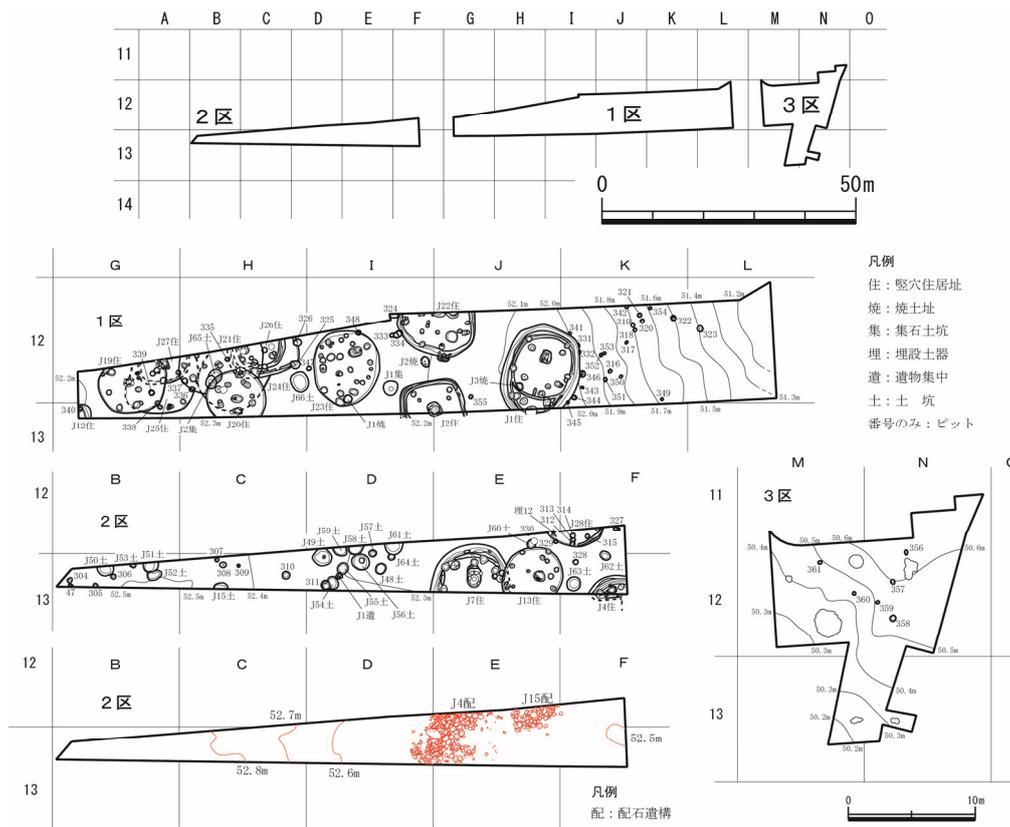
本遺跡では既に第1～4地点の調査が行われ、縄文時代中期後半の拠点的な集落跡が発見されており、今

回の調査地点からもこの集落の一部と考えられる遺構群を確認しました。縄文時代の遺構は、竪穴住居址16軒、配石遺構2基、埋設土器1基、焼土址3基、集石2基、遺物集中1基、土坑20基、ピット57基で、東西方向に長い調査区(1～3区)に分布しています。遺物は主に縄文時代中期後半の土器・石器などで、加曽利E3～E4式期の土器群を含み遺物収納箱に148箱が出土しました。

今回の調査地点で最も古い段階と考えられる加曽利E2式期の遺構は、住居址4軒と土坑3基ですが、両者の分布には差が認められます。土坑3基は2区の西側にまとまり、住居址は1・2区内に分散して位置しています。次の加曽利E3式期は、住居址12軒、土坑4基、遺物集中1基などを検出し、竪穴住居址を含む遺構数が最も増加する時期でもあります。これらの遺構は、調査区中央付近のD～Jグリッド(東西70m程度)の範囲に重複して分布します。本遺跡の最新段階にあたる加曽利E4式期には、2区の東寄り配石遺構2基(J4・15号)、埋設土器1基を検出しました。J4号配石は南北5.7m、東西4.6mの範囲に416点の人頭大を含む自然礫がほぼ平坦に配置された遺構であり、西側の中央付近には重さ約792kgの巨大な礫が斜めに傾いた状態で検出されました。また隣接するJ15号配石では、略東西4.0mの範囲に92点の人頭大を含む扁平礫が平坦に配置されていました。どちらの配石も北側の調査区外へ礫が連続し、一連の遺構となる可能性もあります。埋設土器1基は、加曽利E3式期の住居覆土に掘り込まれていました。

縄文時代以外では、奈良・平安時代の溝状遺構3条、土坑6基、ピット12基、近世以降の溝状遺構1条、土坑103基を検出しましたが、出土遺物が少なく時期の特定が難しい遺構が含まれます。

まとめ 今回の調査では縄文集落の南側の状況を確認でき、中期集落の南西部に規模の大きな配石遺構が構築されていた状態が明らかとなりました。奈良・平安時代では遺構が希薄で不明ですが、近世以降になると農耕に伴う生産域の一部として開墾されたことが分かりました。(秋山重美)



第2図 縄文時代遺構分布図 (1～3区)



写真1 三田林根遺跡第5地点 J4・15号配石遺構 (南から)

相模国府推定域内の奈良・平安時代の調査

すわまえ

諏訪前A遺跡第18地点

ななのいき

七ノ域遺跡第15地点

所在地 平塚市東真土一丁目地内

調査期間 令和4年10月31日～令和5年8月22日

調査面積 1,011m²

調査組織 大成エンジニアリング株式会社

担当者 宇井義典・板倉歆之

調査概要 諏訪前A遺跡と七ノ域遺跡では、奈良・平安時代から近世までの遺構や遺物を確認しています。県道の工事に係る事前の発掘調査として実施され、現在の平塚市東真土一丁目に位置します（第1図）。



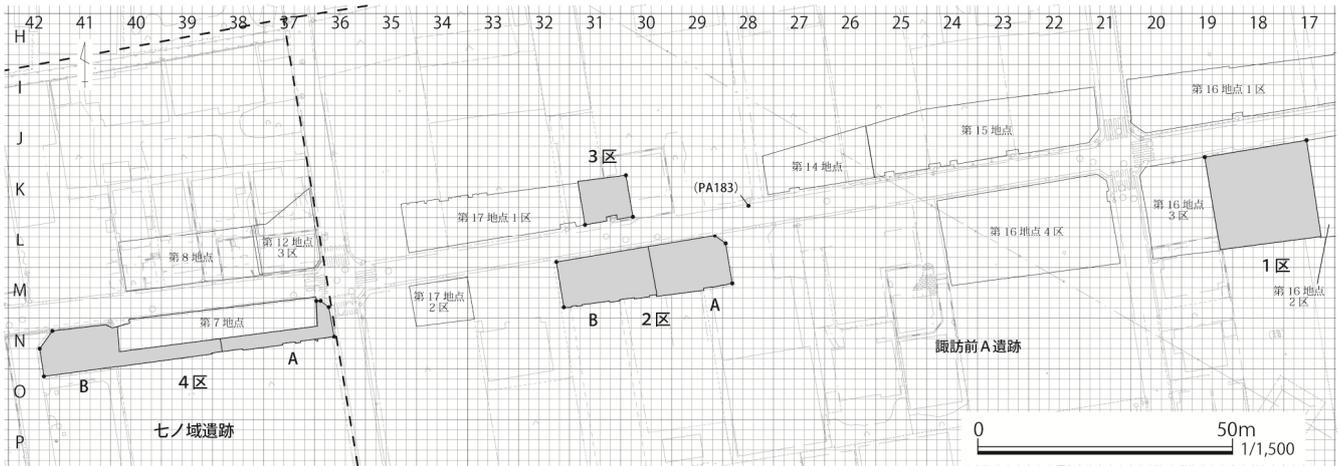
第1図 遺跡位置図 (1/50,000)

諏訪前A遺跡は1区～3区、七ノ域遺跡は4区がそれぞれ該当します（第2図）。確認された遺構のうち、奈良・平安時代の遺構は次のとおりです。

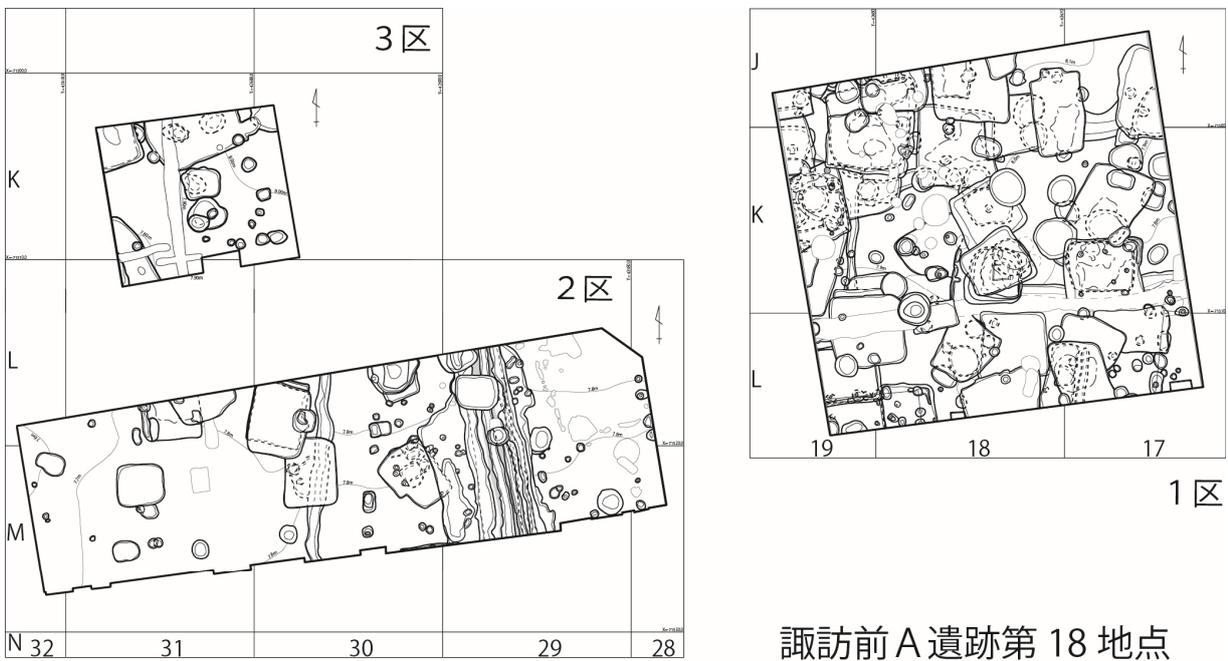
- ・ 1区：堅穴建物跡9軒、掘立柱建物跡3棟、堅穴状遺構30基、井戸1基、土坑60基、溝状遺構5条、性格不明遺構1基、ピット53基
- ・ 2区：堅穴建物跡1軒、堅穴状遺構8基、土坑19基、溝状遺構9条、道状遺構1条、性格不明遺構2基、ピット52基
- ・ 3区：堅穴建物跡1軒、堅穴状遺構4基、土坑12基、溝状遺構1条、ピット7基
- ・ 4区：堅穴建物跡1軒、堅穴状遺構1基、土坑14基、溝状遺構16条、ピット25基

発掘調査によって明らかになった成果のうち、奈良・平安時代の成果を中心に紹介します（第3図）。1～4区の第3面と呼んでいる調査面で奈良・平安時代の遺構を確認し、諏訪前A遺跡（1～3区）では調査区全体に堅穴建物跡や堅穴状遺構、掘立柱建物跡、道状遺構、井戸跡などが見つかりました。七ノ域遺跡（4区）では、堅穴建物跡、堅穴状遺構、土坑、溝状遺構を確認しています。諏訪前A遺跡では、8世紀前半に遺構が作られ始め、10世紀には遺構が少なくなることが分かりました。七ノ域遺跡でも8世紀初頭の遺構が見られますが、その後の変遷は遺物が少なくはっきりとしませんでした。

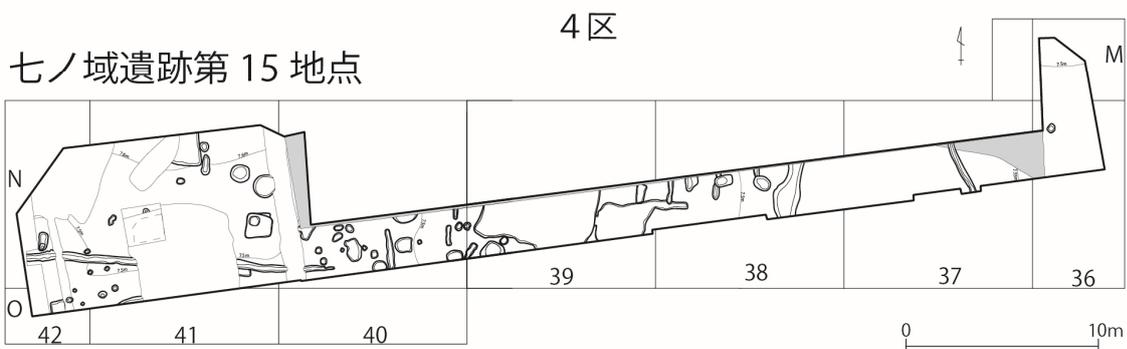
まとめ 諏訪前A遺跡では、8世紀の後半から9世紀の中ごろまでの遺構がとて多く、活動が活発であったことが分かりました。相模国府が成立して機能し始め、成熟期を迎えていたころにあたると思われます。そのほかに重要な遺構の一つに道状遺構があります。この遺構も8世紀初頭に作られた可能性があり、南北方向の道状遺構の中央部分に硬い硬化範囲が確認されました。遺跡の南側にあったとされる古代東海道と関係があるかもしれません。また、遺構が多く作られる中で、1区では井戸跡も見つかり、井戸枠が据えられていました。居住域が広くなり、居住者も増える中で、生活に必要な水の確保がとて重要であったことが窺いしれます。 (宇井義典)



第2図 調査区位置図 (1/1,500)



諏訪前A遺跡第18地点



第3図 奈良・平安時代遺構配置図 (1/400)



今回発表の遺跡

神奈川県発掘調査成果発表会は、神奈川県が行う事業に伴って実施された発掘調査の最新の成果を一般の方々に公開し、埋蔵文化財への理解を深めていただくことを目的としています。